



神奈川県葉山町開業
ナカエ歯科クリニック

前畑 香
先生

今回のアイテム

ハーキュライトウルトラ／ナノ・ハイブリットコンポジットレジン

天然歯と補綴物の調和が容易にできるコンポジットレジン

近年、オールセラミックスクラウンやジルコニアオールセラミックスクラウンによる歯冠修復治療は、PMFクラウンより高い審美性が得られる事、そして患者による審美治療への意識の向上を理由に、増加の一途を辿っている。

特に、審美領域である前歯部歯冠修復治療では、補綴物装着

に伴い隣在歯の形態修正を余儀なく施さなくてはならない症例や、隣接歯のカリエスによりコンポジットレジン修復を行う症例も少なくはない。そのため、コンポジットレジン修復では、天然歯及び補綴物に色調を調和させる事を要求される。

歯質に対し、MI (minimal intervention) 治療に基づいたコ

ンポジットレジン修復を行うにあたり、容易に充填を行う事が出来、歯質と色調が調和し易く、コンポジットレジンの表面性状や光沢感の長期安定を図る事が出来るコンポジットレジンとしてハーキュライトウルトラを使用している。

本稿で示すコンポジットレジン修復は、窩洞形成後、通法

に従い、リン酸エッチング材によるエッチング、プライマー・ボンディング処理を行い、ハーキュライトウルトラ（エナメルA2・ライトインサイザル）を充填した。

ボディーとなるエナメル色とライトインサイザルを組み合わせて充填する事により、コンポジットレジン修復部位と

天然歯及び補綴物の明度や色調の調和を図る事が容易に出来る。審美性と物性を考慮したハーキュライトウルトラによるコンポジットレジン修復は大きな働きをもたらすであろう。



1. 左上1番PMFクラウン除去術前。左上2番の近心形態が不自然であることが観察出来る。



2. PMFクラウン除去後の左上2番の形態は補綴物の形態にあわせて切削されていた。



3. ハーキュライトウルトラを充填し、左上2番の形態回復を図る。KerrHaweのグロスポリッシャー2653、オブチディスク4186(写真)等で研磨する。



4. ハーキュライトウルトラのエナメルA2、ライトインサイザルを使用し充填。



5. 左上2番近心側CR充填は、左上1番オールセラミックスクラウン、及び左上3番天然歯と色調、明度ともに調和する事が出来た。